

つくってあそんだ

かいたひと:さんねんせいの はぎやま

妙な物をつくってみました。

1. エックちゅアーケードスティック



春先に XBOX360 を主に 2D シューティングゲーム目当てで購入したのですが、ゲームを遊ぶなら原点はアーケードだよね！ という謎の電波が頭に入ってきました。そこで、PC でも使えることや、Amazon で値引きされてたこと等を理由に、HORI 製スティックのリアルアーケード Pro.EX(虫姫さまふたり ver)を購入しました。(商品ページ:http://www.hori.jp/products/xbox360/controller/xbox360_mushihimesama_stick/)

しかし天板のステッカーが美少女キャラだとどうにも恥ずかしいのでなんとかできないか、と思っていたところ、新たに天板と同じサイズの紙を印刷し、上に貼り直すという改造例がネット上でいづれか目に留まりました。そこでそれを参考にしてこちらも同じことをやってみようと思い立ち、さらに丁度当サークルの新生歓迎会の時期だったので、そこでゲーム展示の試遊に使えるかも、ということで、サークル黙認(?) マスコットキャラクターのエックちゅ(こいつ →  ドット絵製作者:Hiroki) をモチーフにした改造を行うことにしました。

まず天板の新たなデザインですが、天板形状のテンプレートを掲載しているサイト(Rock'n ゲーム三昧様:<http://rockn69.blog54.fc2.com/blog-entry-427.html>) からテンプレートを拝借し、エックちゅは当サークルメンバーのしばさんが製作したエックちゅ壁紙の一部を使用して、上の完成品画像のような天板デザインができました。天板はサイズが大きめで通常のプリンタでは印刷できないため、A4 サイズの紙に一旦印刷し、それを実寸に合わせて拡大コピーした物を使用しています(しかしサイズを間違えて何度もコピーし直すという失敗を犯してしまった……)。

また、紙をただ貼っただけでは耐久性に問題があるため、さらにその上に保護シートが必要になります。今回は B4 サイズのクリアファイルを、天板を型紙にして切り抜いた物を保護シートとしました。

このアーケードスティックは実際のゲームセンターのビデオゲーム筐体と同一規格のボタンやレバーを使って作られており、ユーザーによる部品の交換も容易なように作られています。私が購入したのは細かい操作に向けたセイミツ工業製のレバーを使ったモデルでした(アーケード筐体向けのレバー、ボタンのメーカーは、格闘ゲームに適した三和電子と、シューティングやアクションゲームに適したセイミツ工業の二社が有名)。しかし、このモデルはボタンには HORI 自社製の物を使っており、これが正直に言ってあまり出来のいい物ではなく、柔らかい癖に押し終わった後は引っかかるような妙な押し心地がします。そこで、どうせ分解するのならついでにボタンも取り替えてしまえ！ という発想に。どんどん泥沼にはまっています。

交換するならば、ボタンもセイミツ工業製のものに統一するべきだと考え、セイミツ工業のホームページ(<http://www.seimitsu.co.jp/>)にて商品カタログを物色。すると、クリアカラーのボタンがあるのを見つけました。なんでもボタンの上面カバーを外すことで、中に紙を入れてボタンの装飾や説明書きを追加することができそうです。そしてこれを見てボタンの中にエックちゅの顔が浮かんでいるという嫌な感じの装飾が即座に思いつき、クリアボタン 8 個を注文したのでした(今時電話注文オンリーってどうよ……でも個人客相手ならニッチな需要だからいいのか)。

注文から数日後、ボタンが宅配便で届きました。ボタンの中に入れるエックちゅの顔は、天板テンプレー

トの、本来なら切り抜く部分であるボタンの穴を逆に活用してレイアウトし、それを切り抜いて作りました。その結果前ページの完成図のような非常に嫌な感じのボタンができました。中に入るエックちゅの色は、XBOX360のコントローラのボタンの色に合わせた物になっています(緑、赤、青、黄、モノクロ系4色)。ボタンの感触もカッチリしていていい感じです。

準備ができたところで組み上げます。でもその過程で写真を撮り忘れてました。この記事を書いている今から分解して撮りなおすのも大変なので文章だけで勘弁して下さい。

新しい天板用の紙を取り付ける手順は、天板を本体から取る→天板からボタンを外す→天板、紙、保護シートの順に重ねる→ボタンを取り付ける→ねじとナットで天板を本体に固定して組み直す、というようになります。でも組む過程の情景描写はこれ以上ここで詳しく書いてもしょうがないよね……？

注意する点として、ボタンを新しい物に交換する際には、基板から出ているコードがどのボタンに繋がっていたかを確認し、ボタンを取り付ける穴の位置を間違えないようにしなければいけません。

そんなこんなで完成しました。保護シートの切り方が雑で切りすぎたりする部分もあるけど細かいことは気にしない。そして完成したはいいいものの、展示用PCへのこのスティックを使うためのドライバの導入に不具合が出て、残念ながら実際の新歓展示には使えませんでした。

ならば今度は調布祭で使えばいいじゃないか！とは思ったものの、おそらく来場者のほとんどはスティックを使ったプレイに慣れてないだろうし、展示には使いづらいような気もしてきた。どうなるかはこの記事を書いている段階では未定です。置いてあったら遊んであげて下さい。

2.Webカメラ入り1/100ボール

サークルの部室を監視するWebカメラシステムが構築されたのですが(それに関連した記事がこの会誌に載っています)、そこで使用していたWebカメラが球状の独特な形をしており、初代ガンダムに登場する兵器(兼作業機械)「ボール」を彷彿とさせる形状でした。そこで、ボールのプラモデルの中にWebカメラを内蔵したら面白いのではないかと思ひ立ち、実際にやってみました。

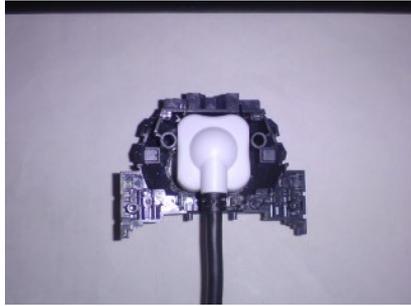
使用するのはバンダイの「マスターグレード 1/100 RB-79 ボール ver.Ka」です。ボールには他にも数種類のプラモデルがありますが、サイズが大きめだったり、フレームに外装を取り付ける構造なので中に物が入れやすかったり、さらにキャノピーを外せば中から外を見ることが出来たりといった理由で前述のものを選びました。

初めのうちはどのWebカメラを使用すれば内部に収まるのかなかなか検討がつかず、一時計画が頓挫しかけていましたが、ある日同じようにボールにWebカメラを内蔵する改造を紹介しているホームページを発見し(<http://kingtaro.hp.infoseek.co.jp/ball.html>)、そこで使用していたのと同じ小型のWebカメラ(サンワ製 CMS-V12)を使うことにしました。ですが既に生産が終了していたため、色々探したあげく電器店の通販ページでアウトレット品が残っていたのをようやく発見しました。今から同じ改造をしようと思っている方は、このような運のいいケースに遭遇しない限り、中に収まりそうな小型のWebカメラを地道に探すしか無いかもしれません。

カメラを内蔵するためには、内側の空間を確保しなければなりません。というわけで、内部をガリガリ削ります。内部構造まで作り込んであることが売りのマスターグレードなのに容赦なくコックピット周りを削り、内部にスペースを作りました。

ここにカメラをはめ込んで固定する訳ですが、そのままではまだ内部で干渉してしまうため、Webカメラの方も前面のカバーを外した上で外装を削っていきます。十分に削れたところで内部のピンを使ってカメラを挟み込むように固定します。そしてその状態で窓枠(?)を取り付け、カメラのレンズが中央に来るように位置を調整します。次ページの写真で見ると分かりやすいかな？





この段階で Web カメラを PC につなぎ、位置がずれていないかを確認した後、中に粘土を詰めてカメラが動かないように固定しました。(左図)

これで Web カメラ内蔵工作は終了です。後は組み上げて外装を取り付けるだけです。前ページの完成写真では付いたままになっていますが、キャノピーのクリアパーツは外しておきます(付けていても一応カメラとしては使えますが、光量が足りなくなる上に隅の方がぼやけてしまいます)。

そして撮影したのがこちらの画像



マニピュレータが写ったり敵さんが迫ってくる恐怖を感じられたりと色々と素敵なボール視点です。気分は鉄の棺桶。カラー記事でモノクロの会誌では味わえない迫力をご堪能ください。

こいつのその後の処遇ですが、部室監視システムに組み込んでもらおうと思ってます。USB ケーブルが結構硬いので、完成例の写真みたいにケーブルだけを支えに空中に浮かせても割と安定してます。なにかの拍子にプラプラ揺れるのもそれなりにかわいくていい感じです。

＼やめて／



へんなものを作るのはたのしいなあ。